

シリーズ 四国霊場を歩く(12)

土佐路を歩く(1)

－藩主の保護と明治維新の危機－



愛媛大学法文学部教授
四国遍路・世界の巡礼研究センター長
胡 光 (えべす ひかる)

土佐路を歩く

津屋崎村（福岡県福津市）の豪商佐治家一行7人が、江戸時代の弘化2年（1845）に行った四国遍路の記録「四国日記」（佐治洋一氏蔵、福岡県立図書館保管）を読み進めます。船で三津浜に上陸し、太山寺を打ち初めに伊予を北上、55日で四国一周します。日記には、日々の歩いた距離、札所数、接待数、宿泊場所、費用、食事などが詳細に記録されており、土佐路に入って3日目、4月20日に二十四番札所東寺（最御崎寺）を打ち終えました。

この日は雨が激しく、津呂浦（室戸市）の商人・大西屋九左衛門宅に泊まります。同浦は、寛文年間（1661-1673）野中兼山の藩政改革で湊が開かれ、町場も形成、捕鯨や鰹漁で栄えました。翌日は晴天となり、早朝、二十五番津寺（津照寺）に向かいます。

湊町と海岸の風景

津寺の門前にも室津の湊町がありました。現在では、キンメダイを食べさせる定食屋が軒を並べています。地藏菩薩を祀る津寺の本堂は、高い石段の上にあります。大師堂は階下があり、その横には湊町らしい金毘羅宮がありました。

町を出ると、川が昨日の雨で増水し、渡ることができず、10時すぎまで茶屋で時間をつぶしました。江戸時代の川には橋がなく、それほど大きくない川でも旅の障害となっていました。遍路がおぼれた記録も残っています。この日は何度も

川を渡り、渡し賃を払って、背負われて渡る、裸で渡るなどの記事が現れ、その困難さを実感します。

二十六番札所西寺（金剛頂寺）は女人禁制のため、女性たちと別れて登ります。合流した後、茶屋で昼食をとりました。羽根村を過ぎ、かりうご浦（奈半利町加領郷）の茶屋に泊まります。

4月22日、出立すると多数の浜や川を越え、二十七番神峯寺に至ります。本尊十一面観音と大師堂を参り「きれいな御札所」と記します。安芸町（安芸市）の商人・山川屋に宿をとりました。

4月23日は、再び大雨となりました。赤岡町を過ぎると、海沿いの道から高知平野へ入っていきます。二十八番札所大日寺に参り、物部川をなんとか渡りますが「恐ろしき川」と記されています。16時ころには、戸板島村（香美市）の百姓家に宿を借りました。

天皇や藩主の庇護

4月24日には、二十九番国分寺、三十番一の宮（土佐神社）へ参ります。

奈良時代、天平9年（737）に聖武天皇は国分寺建立の詔を出し、全国の国府の近くに国分寺が建立されました。四国四カ国の国分寺は、その後、弘法大師が訪れた伝承を持ち、札所になっています。奈良・平安時代は、このあたりが国政の中心で、「土佐日記」を著した紀貫之も土佐国主として赴任していました。室町時代の永禄元年（1558）長宗我部元親が再建した金堂は、国指定重要文化財となり、いまでも柿葺きの伝統的な姿を伝えて

います。藩主が山内家に替わっても庇護を受け、山門は、二代山内忠義の造営によるものです。千手観音が本尊の国分寺は、田の中にある二王門が印象的だったようです。

江戸時代には、各国一の宮をはじめ、主な神社も札所でした。元親建立による本社は、「四国第一の宮」とであると記されます。元親は、戦国の兵乱で焼失した社殿を再建し、本殿・幣殿・拝殿は元亀2年（1571）頃、建立され、国指定重要文化財になっています。忠義が造営した楼門、鼓楼も重要文化財指定を受けています。現在、三十番札所は、土佐神社に隣接する善楽寺が務めています。

明治維新を乗り越えた土佐の札所

明治維新の神仏分離令によって、神社だった札所は関係の深い寺院へ札所を譲り、現在の八十八ヶ所が完成します。明治政府の中心だった薩長土肥（鹿児島・萩・高知・佐賀藩）は、新政策を積極的に推進します。四国の中でも、高知藩は、神仏分離・廃仏毀釈の寺社政策を徹底しました。札所の常夜灯が倒される、遍路道の地蔵の鼻をそぐなどの行為は、この時行われました。

神道は国教化された一方で、藩が保護した寺院政策は廃止され、寺院は荒廃します。寺領は没収され、多くの僧侶が神官となって還俗しました。土佐16カ寺のうち、7カ寺もの札所から廃寺届が提出され、ほかに廃寺同然の札所も存在しました。

三十番札所一の宮（土佐神社）には、神社の管理をする別当寺として、神宮寺と長福寺が存在していました。長福寺は善楽寺となり、同寺に神宮寺が合併されますが、善楽寺は廃寺となりました。善楽寺の本尊は、二十九番国分寺に遷され、さらに高知城下町に近い安楽寺に遷座され、三十番札所となります。明治時代の納経帳には「安楽寺」の朱印が登場します。

昭和4年（1929）善楽寺が再興され、長らく三十番札所が二カ所あるという混乱を招く状況にありましたが、平成6年（1994）に至ってようやく、善楽寺が

三十番札所、安楽寺はその奥の院ということに落ち着いたのです。



二十五番札所津照寺に至る階段



二十九番国分寺金堂（重要文化財）



土佐神社拝殿（重要文化財）

【参考文献】

- 伊予史談会『四国遍路記集』伊予史談会双書、1981
- 『四国遍路のあゆみ』愛媛県生涯学習センター、2001
- 塚本明・近藤浩二・胡光「巡礼と『道中日記』の諸相」『2013年度四国遍路と世界の巡礼公開講演会・公開シンポジウムプロシーディングズ』愛媛大学「四国遍路と世界の巡礼」研究会、2014
- 愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター編『四国遍路の世界』ちくま新書、2020
- 愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター編『四国遍路と世界の巡礼（上）最新研究にふれる八十八話』創風社出版、2022
- 胡光『四国へんろ考—四国の歴史と文化』創風社出版、2026